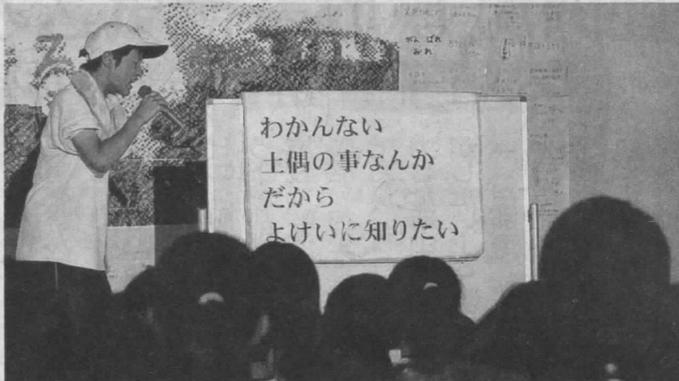


縄文科の学習 合同発表会

茅野の小中13校 23日子どもたち初披露

茅野市教育委員会と市校長会は23日、市内4中学校と9小学校で取り組んでいる「縄文科」学習の合同発表会を市役所8階で開く。各校の教員による教育実践発表会はあるが、児童生徒が学びの成果を披露する場は初めて。互いに



永明中の生徒が考案した「土偶の歌」の歌詞の一部。縄文科学習合同発表会で紹介する

「土偶の歌」など各校で取り組み

どのような活動をしているか知ってもらい、学ぶ意欲の向上につなげたいと企画した。

縄文科は縄文人の生活や思考に触れる学習を通じ、子どもが生きる力やふるさとへの愛着を育むことを狙い、市教委が2014年度に全小中学校に導入。児童生徒は、縄文時代の暮らしについて調べたり、土器作りや火おこしを体験したりしている。

合同発表会は午前8時半から。児童生徒の代表が出席し、各校15分の持ち時間で取り組みの一部を紹介する。永明中は生徒が考案した「土偶の歌」を発表する予定。ロック調のメロディーに「縄文のヒーナス あれば芸術レベル 縄文

人なんてアイデアマンだろう」と歌詞を付けており、9月の学校祭で披露したという。ほかに、生徒が黒曜石を使って食材を切ったり、土器作りに挑戦したりしている映像をスライドで映す。

豊平小は6年2組の児童が来月2月の発表を目指して練習に励む創作劇のさわりを演じる。現代の小学生が縄文時代にタイムトリップして当時の生活を体験し、問題解決には皆が力を合わせる必要があると感じる物語に仕上げているという。

入場無料。21日から市役所1階で、各校の学習を紹介するパネル展示も行う。